

2025 年度

大学院保健学研究科 シラバス

[修士課程 2 年生用]

藤田医科大学大学院保健学研究科

目 次

大学院保健学研究科のカリキュラムについて	i
大学院保健学研究科の3方針	ii
領域別修得単位数	iii
教育課程表	v
授業科目と科目担当者	viii

共通科目

科 目	ページ
保健学セミナー	1

看護学領域

分 野	ページ
基礎・統合看護学分野	2
基礎・統合看護学特別研究	

急性期・周術期分野	4
在宅医療実習	
急性期・外科患者管理統合実習	
急性期・周術期課題研究	

リハビリテーション学領域

分 野	ページ
活動科学分野	11
活動科学演習	
活動科学特別研究	

リハビリテーション機能形態学分野	15
リハビリテーション機能形態学演習	

リハビリテーション機能形態学特別研究

リハビリテーション教育科学分野	-----	20
リハビリテーション教育科学演習		
リハビリテーション教育科学特別研究		
リハビリテーション生体医工学分野	-----	26
リハビリテーション生体医工学演習		
リハビリテーション生体医工学特別研究		

大学院保健学研究科（修士課程）のカリキュラムについて
保健学の広範な知識の修得と独創的な修士論文の作成を目指して
大学院保健学研究科長 長谷川みどり

藤田医科大学大学院保健学研究科は、建学の精神である「獨創一理」－あなた自身の創造力が新しい時代を切り拓く力となる－という理念に基づいて、保健学に関する学術の理論及び応用を教授研究することによって、その深奥をきわめ、国民の健康増進と文化の発展に寄与するとともに、保健学の各領域における高度専門職業人、組織リーダー及び研究者・教育者を育成することを目的とします。また、現代のチーム医療を担う専門医療スタッフ間の相互理解と連携の重要性を鑑み、共通の科目や共通のセミナーを通じた領域横断的な学修も推進しています。

看護学領域は基礎・統合看護学、成人・老年看護学、精神・地域看護学、母性・小児看護学、急性期・周術期、臓器移植コーディネートの6分野、リハビリテーション学領域はリハビリテーション教育科学、活動科学、摂食・嚥下治療学、リハビリテーション生体医工学、リハビリテーション機能形態学の5分野より構成されています。

本課程では、共通科目及びその他の分野の特論と専攻した分野を計30単位以上（看護学領域の急性期・周術期分野においては57単位以上）修得することと、修士論文（看護学領域の急性期・周術期分野、臓器移植コーディネート分野においては課題研究論文）を提出し、論文審査及び最終試験に合格することを修了要件とします。看護学領域を修了した者には修士（看護学）、リハビリテーション学領域を修了した者には修士（保健学）の学位を授与します。

研究を通して以下を修得することが重要です。

1. 主体的な課題探究力
2. 先行研究を理解し、研究発展の系譜を捉える能力
3. 独創性ある研究課題や研究手法を立案・実践する能力
4. 一貫した論理を展開し、研究成果を発信する能力
5. 高度な専門性と研究力を備え、社会に貢献する能力

修士課程での2年間は、短いようでいて、キャリア形成において極めて重要な期間です。自らの可能性を信じ、積極的に学び、研鑽してください。教職員一同、皆様の成長を心から願い、共に歩んでまいります。

大学院保健学研究科の3方針

保健学研究科 保健学専攻修士課程では、現代のチーム医療を担う専門医療スタッフ間の相互理解と連携の重要性を鑑み、全領域の院生が領域横断的に一貫して学ぶことに主眼を置いております。このため、保健学及び看護学の3ポリシーについては、基準を統一します。

1. 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

保健学研究科 保健学専攻修士課程において次のような人材を求めます。

- (1) 看護学、リハビリテーション学等を基盤として、さらに保健学諸分野に深い関心と情熱を持って自ら学び問題を探求する者。
- (2) 自分の研究テーマを深く理解し、新たな発見や真理に向かって努力を怠らない者。
- (3) 医療現場において、保健学の各領域における高度専門職業人や組織リーダーとしてチーム医療の担い手となる「良き医療人」をめざす者。
教育者や研究者として、保健学各領域の発展のための社会貢献をめざす者。

- ・性、人種、宗教、性的指向、社会経済的地位、身体能力の如何によって、入学に関する優先性が影響されることはありません。
- ・禁煙への取り組み

藤田医科大学では、人々の健康を守る医療職者を育成する大学として、入学者は喫煙しないことを約束できる方とします。

2. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

保健学研究科 保健学専攻修士課程にあってはディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるために、以下の方針に基づいて、コースワークである講義と演習、リサーチワークである特別研究を体系的に科目配当し編成している。

- (1) 選択制の共通科目は、他領域の専門知識の理解を促し、幅広い視野に立った学識を育成する。
- (2) 専攻分野に関する科目である特論と演習は、専門領域における課題や問題点を主体的に探し、解決する能力を育成する。
- (3) 保健学セミナーは、必須の共通科目で、著名な研究者を招いて最新の研究動向を理解する能力を育成する。
- (4) 特別研究（課題研究）は、課題や研究手法を立案・実施し、一貫した論理を展開でき、論文を作成する能力を育成する。

3. 卒業認定基準（ディプロマ・ポリシー）

保健学研究科 保健学専攻修士課程にあっては所定の年限以上在籍して、教育の理念と目的に沿って設定した所定の単位を修得し、論文または特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験において、以下の能力を身につけていることを学位認定の基準とします。

- (1) 専門領域における課題や問題点を主体的に探求する能力。
- (2) 幅広い視野に立った学識を備え先行研究を深く理解する能力。
- (3) 新規性（独創性）のある課題や研究手法を立案・実施する能力。
- (4) 一貫した論理を展開する能力。
- (5) 専門分野における研究能力あるいは高度な専門性を必要とする職業を担うための能力。

領域別修得単位数

1) 看護学領域

授業科目	修得単位数		備考
	必修	選択	
共通科目	2 単位	6 単位以上	共通科目として 8 単位以上
成人・老年看護学分野	18 単位		
精神・地域看護学分野	18 単位		
母性・小児看護学分野	18 単位		
基礎・統合看護学分野	18 単位		
臓器移植コーディネート分野	18 単位		
共通科目及び専攻していない分野の特論		4 単位以上	4 単位以上
合計		30 単位以上	

2) 看護学領域（急性期・周術期分野）

授業科目	修得単位数		備考
	必修	選択	
共通科目	6 単位		
急性期・周術期分野	51 単位		
合計	57 単位以上		

3) リハビリテーション学領域

授業科目	修得単位数		備考
	必修	選択	
共通科目	2単位	6単位以上	共通科目として8単位以上
活動科学分野	16単位		
摂食・嚥下治療学分野	16単位		
リハビリテーション機能形態学分野	16単位		
リハビリテーション生体医工学分野	16単位		
共通科目及び専攻していない分野の特論		6単位以上	6単位以上
合計	30単位以上		

4) リハビリテーション学領域（リハビリテーション教育科学分野）

授業科目	修得単位数		備考
	必修	選択	
共通科目	2単位	6単位以上	共通科目として8単位以上
リハビリテーション教育科学分野	18単位		
共通科目及び専攻していない分野の特論		4単位以上	4単位以上
合計	30単位以上		

教育課程表

1) 共通科目

分野	科 目 名	単位数(時間数)		1年		2年		備考
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	
共 通 科 目	保健学セミナー	2 (30)			1		1	
	生命倫理学		2 (30)	2				
	健康科学概論		2 (30)	2				
	保健実践入門		2 (30)		2			
	看護研究法		2 (30)	2				
	看護理論		2 (30)		2			
	コンサルテーション論		2 (30)		2			
	チーム医療論		1 (15)	1				
	医療安全特論		1 (15)	1				
	リハビリテーション医学		2 (30)	2				
	リハビリテーション学概論		2 (30)	2				
	運動生理学特論		2 (30)		2			
	臨床教育学		2 (30)	2				
	運動機能障害		2 (30)	2				

2) 看護学領域

分野	科目名	単位数(時間数)		1年		2年		備考
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	
成人・老年看護学	成人・老年看護学特論Ⅰ		2(30)	2				
	成人・老年看護学特論Ⅱ		2(30)		2			
	成人・老年看護学演習Ⅰ		2(60)	2				
	成人・老年看護学演習Ⅱ		2(60)		2			
	成人・老年看護学特別研究		10(300)		2	4	4	
精神・地域看護学	精神・地域看護学特論Ⅰ		2(30)	2				
	精神・地域看護学特論Ⅱ		2(30)		2			
	精神・地域看護学演習Ⅰ		2(60)	2				
	精神・地域看護学演習Ⅱ		2(60)		2			
	精神・地域看護学特別研究		10(300)		2	4	4	
母性・小児看護学	母性・小児看護学特論Ⅰ		2(30)	2				
	母性・小児看護学特論Ⅱ		2(30)		2			
	母性・小児看護学演習Ⅰ		2(60)	2				
	母性・小児看護学演習Ⅱ		2(60)		2			
	母性・小児看護学特別研究		10(300)		2	4	4	
基礎・統合看護学	基礎・統合看護学特論Ⅰ		2(30)	2				
	基礎・統合看護学特論Ⅱ		2(30)		2			
	基礎・統合看護学演習Ⅰ		2(60)	2				
	基礎・統合看護学演習Ⅱ		2(60)		2			
	基礎・統合看護学特別研究		10(300)		2	4	4	
急性期・周術期分野	フィジカルアセスメント		2(30)	2				急性期・周術期分野を専攻した場合は、共通科目の健康科学概論、チーム医療論、医療安全特論を必修科目とする。
	病態生理学特論		2(30)	2				
	臨床薬理学特論		2(30)	2				
	薬物治療学		2(30)		2			
	リテイカルケア学特論		2(30)	2				
	外科医療病態診断学特論		2(30)	2				
	総合内科学特論		3(45)		3			
	外科患者管理学特論Ⅰ		3(45)		3			
	外科患者管理学特論Ⅱ		3(45)		3			
	急性期患者管理学特論		3(45)		3			
	在宅医療特論		1(15)		1			
	急性期・外科患者管理演習		2(60)		2			
	在宅医療実習		1(45)				1	
	急性期・外科患者管理統合実習		19(855)		1 9			
	急性期・周術期課題研究		5(150)			3	2	

分野	科 目 名	単位数(時間数)		1年		2年		備考	
		必修	選択	前期	後期	前期	後期		
臓器移植コードィネート分野	臓器移植に伴う倫理		2(30)		2			臓器移植コードィネート分野を専攻した場合は、共通科目の生命倫理学、コンサルテーション論、チーム医療論を必修科目とする。	
	臓器移植医療論		2(30)	2					
	臓器移植コードィネート特論		2(30)	2					
	《レシエント移植コードィネーターコース》								
	レシエント移植コードィネート演習		2(60)			2			
	レシエント移植コードィネート実習		5(150)			5			
	レシエント移植コードィネート課題研究		5(150)		1	2	2		
	《ドナー移植コードィネーターコース》								
	ドナー移植コードィネート演習		2(60)			2			
	ドナー移植コードィネート実習		5(150)			5			
	ドナー移植コードィネート課題研究		5(150)		1	2	2		

3) リハビリテーション学領域

分野	科 目 名	単位数(時間数)		1年		2年		備考
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	
活動科学	リハビリテーション科学特論		2(30)		2			
	活動科学演習		4(120)		2	2		
	活動科学特別研究		10(300)		1	4	5	
摂食・嚥下治療学	摂食・嚥下治療学特論		2(30)		2			
	摂食・嚥下治療学演習		4(120)		2	2		
	摂食・嚥下治療学特別研究		10(300)		1	4	5	
リハビリテーション機能形態学	リハビリテーション機能形態学特論		2(30)		2			
	リハビリテーション機能形態学演習		4(120)		2	2		
	リハビリテーション機能形態学特別研究		10(300)		1	4	5	
リハビリテーション教育科学	リハビリテーション教育科学特論Ⅰ		2(30)	2				
	リハビリテーション教育科学特論Ⅱ		2(30)	2				
	リハビリテーション教育科学演習		4(120)		2	2		
	リハビリテーション教育科学特別研究		10(300)		1	4	5	
リハビリテーション生体医工学	リハビリテーション科学特論		2(30)		2			
	リハビリテーション生体医工学演習		4(120)		2	2		
	リハビリテーション生体医工学特別研究		10(300)		1	4	5	

授業科目と科目担当者

1) 共通科目

分 野	授 業 科 目	単位数	時間数	科目担当者名
共通科目	保健学セミナー	2	30	長谷川みどり

2) 看護学領域

分 野	授 業 科 目	単位数	時間数	科目担当教員名
基礎・統合看護学分野	基礎・統合看護学特別研究	10	300	村山陵子 竹原君江 皆川敦子 小柳礼恵
急性期・周術期分野	在宅医療実習	1	45	大杉泰弘 近藤敬太 酒井博崇
	急性期・外科患者管理統合実習	19	855	中村 智之 他
	急性期・周術期課題研究	5	150	林 瞳晴 酒井博崇 植西憲達 伊東昌広 船曳知弘 他

3) リハビリテーション学領域

分 野	授 業 科 目	単位数	時間数	科目担当者名
活動科学	活動科学演習	4	120	寺西利生 鈴木めぐみ 大塚 圭 渡辺章由 山田将之 中島ともみ
	活動科学特別研究	10	300	寺西利生 鈴木めぐみ 大塚 圭
リハビリテーション機能形態学分野	リハビリテーション機能形態学演習	4	120	山田晃司 西井一宏
	リハビリテーション機能形態学特別研究	10	300	山田晃司 西井一宏
リハビリテーション教育科学分野	リハビリテーション教育科学演習	4	120	金田嘉清 櫻井宏明 田辺茂雄 小山総市朗 藤村健太 武田 和也 井伊卓真 鈴村彰太 吉田 太樹 太田皓文 北村 新
	リハビリテーション教育科学特別研究	10	300	金田嘉清 櫻井宏明 小山総市朗
リハビリテーション生体医工学分野	リハビリテーション生体医工学演習	4	120	田辺茂雄 武田湖太郎 上原信太郎 谷川広樹
	リハビリテーション生体医工学特別研究	10	300	田辺茂雄 武田湖太郎 上原信太郎

1. 【共通科目】

保健学セミナー (Health Sciences Seminar)

専攻分野 Major Field	共通科目	学年 Grade	1年・2年	期間 Semester	前期・後期			
授業形態 Style	講演会	単位 Credits	2単位	時間数 Hours	30 時間			
授業方法 Class Methods	対面式授業	使用言語 Language	日本語					
担当教員名 Instructor	はせがわ 長谷川 みどり							
科目概要 CourseAims	患者・住民・地域のニーズにあつた保健医療の提供を目指し、わが国の保健医療の現状と課題を明らかにするとともに、高度専門職業人、研究者及び教育者として良き医療人の育成のために必要な最新で高度な知識を教授する。							
到達目標 Objectives	<ol style="list-style-type: none"> わが国の保健医療の現状と課題を理解できる。 高度専門職業人、研究者及び教育者として良き医療人の育成のために必要な最新で高度な知識を知る。 							
回数 Chapters	授業計画(各回のテーマ) Course Schedule				担当教員 Instructor			
1-8 (1年次)	<ol style="list-style-type: none"> 保健学セミナーとして講演会への1回の参加は、1コマ(2時間)の出席に換算する。 1年間に5月、12月、計2回 講演会を開催する。 また、藤田学園医学会の特別講演及びシンポジウム、コンプライアンスセミナー、研究倫理セミナー、研究セミナー、修士論文発表会をそれぞれ1コマ分の授業に換算する。年合計8コマ分を保健学セミナーの授業とする。 2年間で、保健学セミナー4回、藤田学園医学会特別講演2回、同シンポジウム2回、コンプライアンスセミナー2回、研究倫理セミナー2回、研究セミナー2回、修士論文発表会2回の計 16 回の参加とする。 他の学内の講演会に出席した場合、所定の書類(保健学セミナー出席認定・振替認定申請書)の提出に基づき出席に換算する。(認印は科目担当教員に受ける) セミナーの準備・運営は大学院教務委員会、事務局、学生が協力して行う。 							
9-16 (2年次)								
評価法・基準 Grading Policies	16回の出席で100点と評価する。以後1回の欠席毎に5点減ずる。9回以下の出席は単位未修得と判定する。欠席分を他の学内の講演会(医療科学セミナー等)で補い所定の書類を提出し認定を受けた場合(2年間で4回まで振り替え可能)は出席扱いとし評価に加える。							
教科書 Text Book	特になし	教材・参考書 Reference Book	講演会のテーマに基づき、各自が学修する。					
オフィス アワー Office Hour	保健学セミナー終了後の 10 分	連絡先 Contact						
準備学習 Preparation of study	・医学およびそれらに関係する諸情報・ 知識を得て、課題を持って参加すること。 ・積極的な発言を期待する。	履修上の注意点 Notice for Students						

2. 【看護学領域】

基礎・統合看護学特別研究

(Graduate Thesis of Fundamental and Integrated Nursing Science)

専攻分野 Major Field	基礎・統合看護学分野	学年 Grade	1年・2年	期間 Semester	1年:後期 2年:前期・後期			
授業形態 Style	研究・ゼミ	単位 Credits	10 単位	時間数 Hours	300 時間			
授業方法 Class Methods	遠隔または対面授業	使用言語 Language	日本語					
担当教員名 Instructor	むらやま りょうこ たけはら きみえ みながわ あつこ こやなぎ ひろえ 村山 陵子、竹原 君江、皆川 敦子、小柳 礼恵							
科目概要 Course Aims	<p>看護教育学、看護管理学、看護理工学、ならびに社会実装看護に関する研究課題に取り組み、主体的・計画的に研究を進め、修士論文を作成する。その過程で、それぞれの専門分野の発展に寄与するための基礎的能力を養う。</p> <p>各担当教員の主要研究テーマは以下のとおりである。</p> <p>(村山 陵子)</p> <ol style="list-style-type: none"> 看護理工学を基盤とした看護技術開発、および開発した技術の社会実装に関する研究 第6のフィジカルアセスメントツールとしてのエコー可視化技術の開発・普及に関する研究 <p>(竹原 君江)</p> <ol style="list-style-type: none"> 看護理工学的手法を用いた糖尿病足潰瘍予防やインスリンボル等に関するアドバンストスキンケア開発と社会実装に関する研究 臨床における研究シーズから新しい看護ケアを生み出し、広く臨床に還元するまでの一連あるいはその一部に関する研究 看護基礎教育と臨床とのシームレスな教育環境の検討に関する研究 看護職の働く環境や教育、患者教育に関する研究 <p>(皆川 敦子)</p> <ol style="list-style-type: none"> 専門用語の理解を促す教育方法に関する研究 模擬患者を活用した教育方法に関する研究 <p>(小柳 礼恵)</p> <ol style="list-style-type: none"> 皮膚・排泄ケア分野に関する研究(新生児期から老年期まで) 看護管理、医療・看護の質に関する研究 看護理工学を基盤とした排泄ケアに関する技術の実装に関する研究 							
	<ol style="list-style-type: none"> 看護教育学における自己の研究課題に関連する国内外の文献を包括的に精読し、自己の研究課題の位置づけと意義を明確にすることができます。 自己の研究課題を解決するための研究方法論を理解し、研究計画書を作成することができます。 研究計画に基づき信頼性のあるデータ収集、的確なデータ分析を行い、研究を遂行することができます。 研究成果を、学術論文としてまとめることができます。 研究者として必要な倫理的配慮ができる。 							
	回数 Chapters							
	授業計画(各回のテーマ) Course Schedule							

1年後期(60 時間:30 コマ)			
1-30	1. 興味・関心のある看護教育学に関するテーマを見い出す 2. 文献検索と論文クリティイーク 3. 研究課題の明確化 4. 研究デザインの検討 5. データ収集方法・分析方法の検討 6. 研究計画書および研究倫理審査書類の作成		
2年前期(120 時間:60 コマ)			
1-60	1. 研究フィールドの選択・開拓 2. 予備調査の評価:データの質・データ解釈の評価 3. データ収集 4. データ分析		
2年後期(120 時間:60 コマ)			
1-60	1. 修士論文の作成 2. 研究成果の発表		
評価法・基準 Grading Policies	修士論文 80%、論文作成過程での学修状況 20% 「学位論文における評価の考え方」(学生便覧参照)に沿って評価する。 修士論文については論文審査後にフィードバックします。		
教科書 Text Book	なし	教材・参考書 Reference Book	1) Polit, D. F. & Beck, C. T. : Nursing research, Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice (11th ed.). Lippincott Company, Philadelphia. 2) Grove, S. , Burns, N. , Gray, J. : The Practice of Nursing Research: Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence (7th ed.). Saunders.
オフィス アワー Office Hour	授業後の30分間オンラインで対応します。	連絡先 Contact	
準備学習 Preparation of study	研究課題に対し、授業前に1時間以上の自己学習を行う。授業で扱った内容を振り返り確認する(30分程度)。	履修上の注意点 Notice for Students	自己学習と授業の進捗状況を研究ノートに記録する。 計画的に研究を進め、悩んだ場合は教員に助言を求める。

在宅医療実習 (Practical traininge of Home Care)

専攻分野 Major Field	急性期・周術期分野 Acute Care and Perioperative Care	学年 Grade	2年生 Second Year	期間 Semester	後期 Fall Semester			
授業形態 Style	実習(選択) Internship (Optional)	単位 Credits	1単位 1 Credit	時間数 Hours	45 時間 45 Hours			
授業方法 Class Methods	対面式授業 Face-to-face Instruction	使用言語 Language	日本語 Japanese					
担当教員名 Instructor	おおすぎ やすひろ こんどう けいた さかい ひろたか 大杉 泰弘、近藤 敬太、酒井 博崇 ※担当教員は全て実務家教員							
科目概要 Course Aims	訪問診療、訪問看護に同行し、在宅療養者の 24 時間の生活を含めた健康アセスメントを行う。在宅での特定行為実践に必要な手技・医療を習得する。療養者を中心に保健・医療・福祉の各専門職者との連携、方針や情報の共有について実習する。							
到達目標 Objectives	<ol style="list-style-type: none"> 訪問診療を受けている在宅療養者の健康アセスメントを行うことができる。 在宅医療における診察、臨床診断、治療を理解し、問題点をアセスメントできる。 医療依存度の高い在宅療養者の特定行為実践に必要な手技・医療を習得する。 保健・医療・福祉の各専門職者との連携、情報の共有について述べることができる。 在宅医療における診療看護師(NP)が果たすべき役割を述べることができる。 							
回数 Chapters	授業計画(各回のテーマ) Course Schedule	実践的内容・授業方法 演習及び一部の講義は双方向で行う		担当教員 Instructor				
1-23	<p>大学病院での急性期・外科患者管理統合実習を修了し、選択単位として1週間、訪問診療、訪問看護に同行して実習を行う。</p> <p>患者に対する実技を行う場合、1症目は必ず指導者が行う行為の見学、又は手伝いを行う。その後は、指導者の判断で、直接実施の許可が得られた場合のみ実践を行う。</p> <p>診療、臨床診断、治療のプロセスを医師に同行して実習する。</p> <p>訪問看護に同行し、地域における看護実践、社会資源の利用、各専門職種との連携、情報共有について学ぶ。</p> <p>訪問診療、訪問看護を通して在宅療養者の健康アセスメントを行い、在宅医療における診療看護師(NP)が果たすべき役割を考察する。</p>	<p>訪問診療、訪問看護の同行実習</p> <p>医師、看護師のミーティングの参加</p> <p>症例発表</p>		大杉 泰弘 近藤 敬太 酒井 博崇				
評価法・基準 Grading Policies	<p>評価法:</p> <ol style="list-style-type: none"> ①臨床実習取り組み姿勢評価表(50 点) ②臨床能力評価表(50 点) ③特定行為技能評価表(特定行為を実施した場合に評価) <p>基準:到達目標1~5の到達度を計る。</p> <p>フィードバック:口頭試問による小テスト実施後には、模範解答・解説を行う。</p>							
教科書 Text Book	なし	教材・参考書 Reference Book	適宜紹介する					
オフィス アワー Office Hour	酒井博崇:大学3号館 6F-621 金曜日(16:00~17:00) (質問の窓口として、酒井が対応します)	連絡先 Contact						

準備学習 Preparation of study	翌日担当する患者の把握	履修上の注意点 Notice for Students	在宅診療の利用者、その家族に 自分の身分を説明し、見学・実施 の許可を得ること。
---------------------------------	-------------	-----------------------------------	--

急性期・外科患者管理統合実習 (Clinical Practice of Patient Treatment)

専攻分野 Major Field	急性期・周術期分野 Acute Care • Perioperative Care	学年 Grade	2年 2 years	期間 Semester	全期 Full Period			
授業形態 Style	実習 Practical Training	単位 Credits	19 単位 19 credits	時間数 Hours	855 時間 855 hours			
授業方法 Class Methods	対面式授業 Face-to-face Instruction	使用言語 Language	日本語 Japanese					
担当教員名 Instructor	中村 智之(医師)、阿部 知伸(医師)、須田 康一(医師)、星川 康(医師)、岩田 充永(医師)、鈴木 敦詞(医師)、林 瞳晴(医師)、酒井 博崇(診療看護師) 他 外科系医師教員(順不同) ※担当教員は全て実務家教員							
科目概要 Course Aims	<p>医師の包括的指示のもとに、急性期・周術期において診療看護師(NP)として一定レベルの診療を担うための実習を行うが、看護師としての患者ケアの力量を土台とするものである。統合外科、心臓血管外科・呼吸器外科、救急・ER、麻酔・集中治療、をローテートする。学生の希望により、脳神経外科、整形外科、等の選択も場合によっては可能である。但し、各医局の承諾が必要である。二週間に一度の症例検討会を全員で行う(課題研究に組み入れる)。合わせて症候学も修得する。グループワークやグループディスカッションを通して、問題解決能力を養い、適切な対処ができるようにする。</p> <p>また、質量ともに厚生労働省が進める「看護師の特定行為研修制度」を凌駕した内容となる。</p>							
到達目標 Objectives	<ol style="list-style-type: none"> 一年目に学んだ基礎的事項とともに、実施に必要となる基礎的な知識の理解や思考過程及び基礎的な実践能力の修得をさらに進展できる。 医師の直接的指示により実習を行い、包括的指示につなげられる。 受け持ち患者の診断・治療を簡潔かつ的確に報告でき、問題点などを推論できる。 安心・安全な患者診療のために診療看護師(NP)が果たすべき役割を述べられる。 特定行為 38 項目、特定 21 区分の修得。 <p>*指導医とともに受け持ち患者への自己紹介が的確に行い、患者からの許可を得る。</p>							
回数 Chapters	授業計画(各回のテーマ) Course Schedule							
1-428	<p>入院患者は、入院から退院までを受け持ち、患者本人のみならず、家族・社会的背景などを加味して安心・安全な医療をめざし医師の診療の助けを行う実習を行う。また、看護の視点を忘れず、診療看護師としてのアイデンティティとは何かを考え行動できるように促す。</p> <p>すべての実習先において、座学で修得した学習内容をもとに、診療のプロセスを指導医より学ぶ。また、臨床で実施される 各種検査についての理論は指導医より学ぶ。その後、各種検査データーやフィジカルアセスメントを実践して得られた情報をもとに、アセスメントを行い、指導医から指導を受けながら、臨床推論を行う。感染などを疑う場合は、速やかに薬剤を選択できるように訓練する。また、精神科領域の疾患や神経症状を認める場合は、適切な薬剤投与と、検査データーをそろえて、丁寧なアセスメントと臨床推論を行い、適切に対応できるように実習する。</p> <p>医療面接は、指導医に同席して学習し、指導を受ける。その後指導医の指示で、医療面接を実際に実施する。</p> <p>救命救急センター・救急外来では、正確な病態把握、緊急性の判断に基づいたトリアージのための訓練学習を行う。医師の包括的指示により自らが実施できる軽症例と医師の直接介入による重症例との鑑別を行い効率の良い救命救急医療を行うための訓練実習を行う。重症度の把握、不整脈監視・管理、救急患者の身体所見の把握・検査計画立案、医師の指示によるスクリーニング検査、胸部X線・CT・MRI読影の補助、動脈ライン確保、人工呼吸</p>							

	<p>吸管理、循環動態モニタリング、カテーテル挿入時の介助、経食道超音波検査準備・プローブ挿入アシスト、予め留置されたスワントン・ガントカテーテルによる循環動態測定などを行う訓練実習を行う。</p> <p>外科治療においては、医師と協働して手術の助手等を担当し、術前・術後管理においては医師の包括的指示に基づいて患者管理(循環動態の安定、術後疼痛管理、水分出納バランス調整・呼吸管理、創処置・胸腹部・心臓ドレーン管理)の訓練実習を行う。教育を受けた看護師の特定能力の程度を医師が判断することにより、手術や処置等では、医師の直接指導の下、手術の助手や中心静脈カテーテル抜去やPICC挿入等の実習を行う。病棟等では、全身状態を把握し、医師の包括的指示に基づき、病態に応じて薬剤や輸液の調整、直接動脈穿刺採血、各種ドレン管理・抜去等、主に高度な判断が必要な行為を実施する訓練実習を行う。ただし、急性期・周術期分野ではあるが、術前・術後に内分泌性疾患を合併することも多く、インスリン投与量の調整や食事、輸液量の調整など、この分野の学習・習得も求められる。また、褥瘡処置については、医師とともに診察し、必要時、壞死組織除去や陰圧閉鎖療法を行い、その改善に努めるように実習する。点滴施行中に薬剤が漏出した時の対応についても実習する。胃ろう、腸ろうのカテーテル交換、胃ろうボタンの交換方法、膀胱ろうカテーテル交換について実習する。</p>	特定行為実践 循環動態に係る薬剤投与関連 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 術後疼痛管理関連 創部ドレーン管理 腹部ドレーン管理 胸腔ドレーン管理 心臓ドレーン管理 栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル) 栄養に係るカテーテル管理(PICCカテーテル) 動脈血液ガス分析関連 循環動態に係る薬剤投与関連 血糖コントロールに係る薬剤投与関連 創傷管理関連 皮膚損傷に係る薬剤投与関連 ろう孔管理関連
	<p>麻酔医療においては、周術期麻酔チームの一員として主に麻酔医の直接的指示により麻酔の補助を行う訓練実習を行う。このため麻酔前の気管内チューブの選択から、位置調整、橈骨動脈ライン確保などの実習をする。麻酔中は麻酔の維持と人工呼吸器の管理方法、輸液の管理とモニタリングから得られる情報のアセスメントについて実習する。また、術後の覚醒に向けた人工呼吸器の離脱から抜管、バックバルブマスクを用いた用手換気、鎮痛管理などを実習する。</p>	特定行為実践 呼吸器(気道確保に係わるもの)関連 動脈血液ガス分析関連 呼吸器(人工呼吸療法に係わるもの)関連 呼吸器(人工呼吸療法に係わるもの)関連
	<p>ICU 実習では、循環動態に影響する薬剤投与や輸液管理と呼吸(人工呼吸器、NPPV)管理、鎮静剤投与量の管理・循環管理(PCPS,IABP、血液透析、ペースメーカー)について実習を行う。長期に人工吸器管理となっている患者への気管カニューレ交換なども実習する。いずれも指導医と事前に演習を行ったあとに、指導医の立会いのもと、実際操作や行為の実施を行う。</p>	循環動態に係る薬剤投与関連 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 呼吸器(人工呼吸療法に係わるもの)関連 呼吸器(長期呼吸療法に係わるもの)関連 循環器関連 透析管理関連 医療安全学

評価法・基準 Grading Policies	<p>評価法:各担当科による観察評価と実技試験、口頭試問、筆記試験など。 月2回の症例発表(林 瞳晴が評価し、各科に報告)。</p> <p>基準:1.特定行為38項目、特定21区分の習得。大学院修了要件の一つとなる。</p> <p>2.包括的指示の意味を説明できる。</p> <p>3.看護の視点を忘れず患者に病態生理を説明できる。</p> <p>4.チーム医療の一員としての自覚をもてる。</p> <p>5.診療看護師(NP)が果たすべき役割を述べられる。</p> <p>6.受け持ち患者の診断・治療を簡潔かつ的確に報告でき、問題点などを推論できる。</p> <p>フィードバック:口頭試問による小テスト実施後には、模範解答・解説を行う。</p>		
教科書 Text Book	各担当科	教材・参考書 Reference Book	各担当科
オフィス アワー Office Hour	酒井博崇:大学3号館6F-621 金曜日(16:00~17:00) (質問の窓口として、酒井が対応します)	連絡先 Contact	
準備学習 Preparation of study	翌日担当する患者の把握	履修上の注意点 Notice for Students	いづれの科をローテート中も、学生間の情報交換に勤めること。この能力も評価の対象となる。

急性期・周術期課題研究(Graduate Thesis of Acute and Perioperative Period)

専攻分野 Major Field	急性期・周術期分野	学年 Grade	2年	期間 Semester	全期			
授業形態 Style	講義・演習	単位 Credits	5単位	時間数 Hours	150 時間			
授業方法 Class Methods	対面式授業	使用言語 Language	日本語					
担当教員名 Instructor	はやし むつはる さかい ひろたか うえにし のりみち いとう まさひろ ふなびき ともひろ 林 瞳晴、酒井 博崇、植西 憲達、伊東 昌広、船曳 知弘 他 ※担当教員は全て実務家教員							
科目概要 Course Aims	各々が特論、演習、実習で得た知識、技術に基づき、チーム医療の観点から、周術期管理・救急医療・災害医療・高度先進医療(ロボット手術・移植医療・低侵襲手術・補助人工心臓治療など)・医療安全・医療経済・実習で担当した症例の課題などを研究し、発表を行う。加えて、研究に係る診断(症候を含む)・治療・看護などについても幅広く学習する。							
到達目標 Objectives	1. 教員から与えられたあるいは学生自身が興味を持った課題について、自ら問題解決への方法を考え、検索・学習し、実行する事ができる。 2. それぞれの課題研究につき、分かりやすく発表することができる。 3. 症例報告の場合は、患者の個人情報保護を十分に順守できる。 4. その他、研究発表上の倫理規定を十分順守できる。							
回数 Chapters	授業計画(各回のテーマ) Course Schedule				担当教員 Instructor			

2年前期(90 時間:45 コマ)

1-45	(第一期) 学生の所属する「急性期・周術期分野」の発足に至った事情と現在の内外の情勢を理解することを最初の学習とする。図書館等での文献検索の方法と研究方法を学ぶ。研究課題をいくつかの候補から決定し、研究戦略を教官とともに構築する。グループ学習も可	林 瞳晴 酒井 博崇 植西 憲達 伊東 昌広 船曳 知弘
	(第二期) 臨床実習が開始されるので、興味をもったあるいは教員が指定した症例研究を開始する。患者にはその旨説明し、理解を求め、文章に残す。第一期の研究は継続。ひと月に2回の頻度で症例発表会を行い、問題点等の討議を行う。	

2年後期(60 時間:30 コマ)

1-30	(第三期) まとめの段階。大学院修士論文発表会で要旨を提出し、発表する。学術論文が完成できれば提出する。症例報告も含め複数の課題研究を行った場合は、代表研究を発表する。	林 瞳晴 酒井 博崇 植西 憲達 伊東 昌広 船曳 知弘
	評価法:研究発表、研究内容・方法などで評価。 基準: 1. 課題について、自ら問題解決への方法を考え、検索・学習し、実行する事ができる。 2. 分かりやすく発表することができる。 3. 患者の個人情報保護を十分に順守できる。 4. 研究発表上の倫理規定を十分順守できる。 フィードバック: 口頭試問による小テスト実施後には、模範解答・解説を行う。	
評価法・基準 Grading Policies	教材・参考書 Reference Book	
教科書 Text Book		

オフィス アワー Office Hour	質問は、授業後 30 分または、 酒井博崇:大学 3 号館 6F-621 金曜日(16:00～17:00) (質問の窓口として、酒井が対応し ます)	連絡先 Contact	
準備学習 Preparation of study	自主的に、30 分程度予習し、参考 書・参考文献を検索し、該当分野 の知識を深めた上で、研究に臨む こと。	履修上の注意点 Notice for Students	自分で問題点と解決策を発見する能 力を磨きます。また、研究とはどの様 なものかを実感し、各種学会での発 表、学術論文作成も視野に入れて欲 しい。

3. 【リハビリテーション学領域】

活動科学演習 (Activities Sciences Exercise)

専攻分野 Major Field	活動科学分野	学年 Grade	1年・2年	期間 Semester	1年:後期 2年:前期			
授業形態 Style	実習・ゼミ	単位 Credits	4 単位	時間数 Hours	120 時間			
授業方法 Class Methods	対面式授業	使用言語 Language	日本語					
担当教員名 Instructor	てらにし としお 寺西 利生(科目責任者)、鈴木 めぐみ、大塚 圭、渡辺 章由、山田 将之、中島 ともみ							
科目概要 Course Aims	人間の活動を科学的に分析するためには、種々の方法と考え方がある。多種多様な面から人間の活動や遂行機能を分析できるようになる必要がある。そこで、この科目では、修士論文の作成のための知識や技術を習得できるようになるために、種々の分析方法や考え方を講義する。また、障害者の日常活動の変容を、質と量と社会システムという側面から分析する手法を説明する。							
到達目標 Objectives	<ol style="list-style-type: none"> 運動課題の計測を行うことによって、運動システムの関わる現象を計測し考察できる。 得られたデータの解析や統計的処理を行い、結果について討議することで、計測・解析・考察という研究の一連の手順を実施できる。 論文を精読し、最新の知見を習得することによって、仮説設定と立証法、理論的思考等研究手法を立案できる。 							
回数 Chapters	授業計画(各回のテーマ) Course Schedule				担当教員 Instructor			
1年後期(60 時間:30 コマ)								
1-10	バランス保持能力についての論文検討 転倒危険度評価についての論文検討 ミニレビューの発表と議論				寺西利生			
11-20	認知機能障害のリハビリテーション 症例報告および検討				鈴木めぐみ			
21-30	動作分析に関する論文検討を行う。 動作分析計測の計画立案と計測を行う。 動作分析データの解析を行う。				大塚圭			
2年前期(60 時間:30 コマ)								
1-10	装具が活動に及ぼす影響について体験と検証方法を検討する。				水野元実 (代行: 寺西利生)			
11-16	高次脳機能障害領域の質的および量的研究の手法を検討				渡辺章由			
17-24	科学革命の構造、パラダイムの誕生と変遷の理解 システムチックレビューによる文献検討				中島ともみ			
25-30	麻痺の治療についての研究方法の理解 促通治療の体験				山田将之			
評価法・基準 Grading Policies	各担当教員の求める課題について具体的な説明を求め、その回答を総合的に判断し、6割程度の到達度を持って、合格とする。具体的な評価方法の内訳は、課題レポート 40%、授業への参加度 40%、口頭試問 20%とする。課題や口頭試問について到達目標に達していなかった点を講義中に解説する。							
教科書 Text Book	必要に応じて資料を配布する。	教材・参考書 Reference Book						

オフィス アワー Office Hour	寺西利生 大学 8-7F-704 月曜日 8:00-8:30, 21:10-21:30 鈴木めぐみ 大学 8-7F-706 講義日 18:00-21:00 大塚圭 大学 8-7F-716 講義日 17:50-18:00, 21:10-21:20 渡辺章由 大学 8-7F-713 講義日 18:00-21:00 山田将之 大学 8-7F-720 講義日 18:00-21:00 中島ともみ 大学 8-7F-714 講義日 18:00-21:00	連絡先 Contact	
準備学習 Preparation of study	指定したテーマを 30 分間程度、事前に予習すること。また、演習後復習を 1 時間程度行うこと。何事にも興味をもち、積極的態度で臨むこと。	履修上の注意点 Notice for Students	ノートの編集は手書きでもパソコンを用いてよい。毎回、自身の PC を持参のこと。何事にも興味をもち、積極的態度で臨むこと。

活動科学特別研究 (Graduate Thesis of Activities Sciences)

専攻分野 Major Field	活動科学分野	学年 Grade	1年・2年	期間 Semester	1年:後期 2年:前期・後期		
授業形態 Style	研究・ゼミ	単位 Credits	10 単位	時間数 Hours	300 時間		
授業方法 Class Methods	対面式授業	使用言語 Language	日本語				
担当教員名 Instructor	てらにし としお すずき おおかか けい 寺西 利生、鈴木 めぐみ、大塚 圭						
科目概要 Course Aims	<p>基礎研究、臨床研究を問わず活動障害をあつかう理学療法・作業療法に関する臨床指向的な研究を行う。つまり、理学療法と作業療法を運動学、神経心理学、電気生理学、義肢装具学等を基礎とし、従来治療法の神経生理学・神経心理学的側面から検討する。また、身体因子や心理因子だけでなく、その個人を取り巻く環境因子とともに人は理解されるべきであり、その活動に対しては包括的にアプローチすることが重要である。</p> <p>活動科学分野では、生体計測法・治療技術・装具・福祉支援機器の開発を行い、後世にわたり広く臨床医療に貢献できるテーマを担当教員と討議し設定する。学生は、随時指導教員と討議しながら研究を進め、成果を学会、あるいは論文にて公表するとともに、修士論文を作成する。</p> <p>(寺西利生)</p> <ol style="list-style-type: none"> リハビリテーション療法の治療介入および帰結に関する研究 病院内における転倒リスク評価と管理手法の開発 臨床に有用性の高い動作分析手法の開発 トレッドミル歩行分析および動作分析に関する研究 トレッドミル歩行練習法の開発 麻痺性疾患における装具療法に関する研究 <p>(鈴木めぐみ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 高次脳機能障害者の主観的・客観的 QOL に関する研究 高次脳機能障害者・認知症患者の評価・訓練に関する研究 高次脳機能障害者の社会参加に関する研究 <p>(大塚圭)</p> <ol style="list-style-type: none"> 臨床指向を目標とした歩行分析法の開発 脳卒中片麻痺者の歩行の病態解明に関する研究ならびに分析法の考案 脳卒中片麻痺者の動的バランス評価法の開発 変形性股関節症患者の歩行の病態解明に関する研究ならびに分析法の考案 歩行中におけるインシデントの定量分析 						
	<ol style="list-style-type: none"> 研究の意味を理解し、研究活動を習慣化し、研究者としての自覚を持つ。 倫理的配慮ができるようになる。 研究遂行手法を習得する。 コミュニケーション(説明手法、研究発表、論文執筆)スキルを身につける。 						
回数 Chapters	授業計画(各回のテーマ) Course Schedule						
1年後期(30 時間:15 コマ)							
1-15	<ol style="list-style-type: none"> 関心をよせる問題に関する文献を選択し、批判的に分析する。 各自の研究課題を明確化し、研究の実現性を評価する。 						
2年前期(120 時間:60 コマ)							

1-60	1. 研究テーマに基づき、研究計画書(要倫理的配慮)を作成する。 2. データ収集およびデータ分析を行う。		
2 年後期(150 時間:75 コマ)			
1-75	1. 分析結果に対する考察および検討を行う。 2. 必要に応じて追実験を行う。 3. 修士論文の作成 4. 修士論文の報告		
評価法・基準 Grading Policies	課題レポート、ゼミ資料、試問(70%)と受講態度(30%) 目標の理解度を計るため、レポート、資料作成等の課題、または試問を課す。		
教科書 Text Book	必要に応じて資料を配布する。	教材・参考書 Reference Book	必要に応じて資料となる論文等を配布する。
オフィス アワー Office Hour	寺西利生 大学 8-7F-704 月曜日 8:00-8:30, 21:10-21:30 鈴木めぐみ 大学 8-7F-706 講義日 18:00-21:00 大塚圭 大学 8-7F-716 講義日随時	連絡先 Contact	
準備学習 Preparation of study	その都度、次回までの課題を指定する。 必要な文献を指定するので、それについて通読する(60 分)。	履修上の注意点 Notice for Students	各自の研究テーマは担当教員の研究テーマに関連した内容が望ましい。

リハビリテーション機能形態学演習

(Rehabilitation Functional Morphology Exercise)

専攻分野 Major Field	リハビリテーション機能形態学分野	学年 Grade	1年・2年	期間 Semester	1年：後期 2年：前期					
授業形態 Style	演習・実験・ゼミ	単位 Credits	4 単位	時間数 Hours	120 時間					
授業方法 Class Methods	対面式授業	使用言語 Language	日本語							
担当教員名 Instructor	やまだ こうじ 山田 晃司 (科目責任者)、西井 一宏	にしい かずひろ								
科目概要 Course Aims	<p>機能評価を行う上で、疾患モデル動物実験系を用いた研究法を例に形態と機能から疾患との関係について講義する。研究の進め方、研究方法の技術、結果の評価法を詳細に分析する目的と理解能力を養うため文献を通して説明する。また、ヒトの中核神経機能を測定するための実験的神経心理学的手法について講義を行う。(オムニバス方式)</p> <p>(山田晃司)</p> <ol style="list-style-type: none"> 免疫組織学的方法、遺伝子工学的手法、生化学的技術を身につけ、骨、筋の生理学的メカニズムを理解し、研究の進め方、文献の活用法、結果の評価方法を説明する。 閉経後の骨代謝、多種にわたる運動負荷による骨、筋の形態的変化ならびにタンパク質の変動を解析する知識や技術を習得し、自己の研究課題を深め、展開し明らかにする。 老化に伴う運動器系の身体変化を理解し、それに見合った運動療法を検討し明らかにする。 神経心理学的手法を用いた中枢神経機能を理解し、測定手法を説明する。 <p>(西井一宏)</p> <ol style="list-style-type: none"> 動物を用いた実験の立案方法、基本的な技術を説明する。 組織学的手法を用いて脊髄神経におけるセロトニンニューロンの分布を明らかにする。 モデル動物における脊髄損傷後の運動器の変化を理解し、神経再生のメカニズムについて解析を行い明らかにする。 									
	<p>(山田晃司)</p> <p>実験研究計画の立て方、文献の調べ方から活用法、実験の遂行の仕方に関する知識を得る。また、身体における運動器系の基本的な生理メカニズムを理解し、免疫組織学的方法、遺伝子工学的手法、生化学的技術、神経心理学的手法を用いた機能解析方法の習得し共同者と協力して実験を遂行することができる。</p> <p>(西井一宏)</p> <p>動物を用いた実験についての基本的な知識、技術を習得し共同者と協力して実験を遂行することができる。また、脊髄神経と運動器の関連性についての基本的なメカニズムを理解し論理的に述べることができる。</p>									
回数 Chapters	授業計画 (各回のテーマ) Course Schedule				担当教員 Instructor					
1年後期 (60 時間 : 30 コマ)										
1	実験計画法：効率のよい実験方法を設計 (デザイン) し、結果を適切に解析することを目的とする。				山田晃司					
2	実験計画法：実験研究計画の立て方、文献の調べ方から活用法、用いるべき実験法の選択、実際の実験遂行の仕方、結果の解釈とまとめ方				山田晃司					
3	実験手技理論：組織標本の作り方 固定、包埋、薄切、HE 染色				山田晃司					

4	実験手技理論：顕微鏡を用いた組織標本の観察 計測と解析法	山田晃司
5	実験手技理論：特殊な染色法による組織標本の作り方	山田晃司
6	実験手技理論：骨標本の作り方と骨形態計測法	山田晃司
7	実験手技理論：筋標本の作り方と ImageJ を用いた計測法	山田晃司
8	実験手技理論：分子生物学的手法；組織からのタンパク質の抽出、Western blotting 法、蛍光染色と多重染色	山田晃司
9	実験手技理論：分子生物学的手法； ELISA 法、細胞培養、神経心理学的手法；反応時間課題	山田晃司
10	実験手技理論：実験動物の基本的取り扱い方法	西井一宏
11	実験手技理論：実験動物の手術方法、材料採取方法	西井一宏
12-15	担当教員からの運動器系に関わる基本的論文および最新論文紹介	山田晃司 西井一宏
16-19	修士論文の書き方並びに論文テーマの関連論文の検索と論文紹読会	山田晃司 西井一宏
20-30	研究テーマに関わる実験手技術の習得	山田晃司 西井一宏
2年前期（60 時間：30 コマ）		
1-30	研究テーマに関わる実験手技術の習得	山田晃司 西井一宏
評価法・基準 Grading Policies	評価：実技試験（70%）、学習姿勢（30%） 基準：実際に修得した実験法が、一人で実施できるか実技試験を行い、その場で解説をし、フィードバックを行う。	
教科書 Text Book	特に指定しない 資料配布	教材・参考書 Reference Book 高田邦昭（編）. 初めてでもできる共焦点顕微鏡活用プロトコール. 羊土社. 野地澄晴. 免疫染色& <i>in situ</i> ハイブリダイゼーション最新プロトコール. 羊土社. 高田邦昭, 他（編）. 染色・バイオイメージング実験ハンドブック. 羊土社. 森山達哉, 他（編）. バイオ実験で失敗しない！タンパク質精製と取り扱いのコツ. 羊土社.
オフィス アワー Office Hour	山田晃司 大学 8-7F-707 木曜日 19:00-20:00 メールでの質問を受け付けます。 西井一宏 大学 8-7F-723 木曜日 19:00-21:00 メールでの質問を受け付けます。	連絡先 Contact

準備学習 Preparation of study	準備学習：基礎知識について予習 1 時間、演習・実験・ゼミ進行に伴う発展的復習 1 時間ほど行うこと。何事にも興味をもち、積極的态度で臨むこと。	履修上の注意点 Notice for Students	実験ノートの編集は手書きでもパソコンを用いててもよい。持ち物は指定がない場合特になし。
------------------------------	--	--------------------------------	---

リハビリテーション機能形態学特別研究

(Graduate Thesis of Rehabilitation Functional Morphology)

専攻分野 Major Field	リハビリテーション機能形態学分野	学年 Grade	1年・2年	期間 Semester	1年：後期 2年：前期・後期			
授業形態 Style	演習・実験・研究	単位 Credits	10 単位	時間数 Hours	300 時間			
授業方法 Class Methods	対面式授業	使用言語 Language	日本語					
担当教員名 Instructor	やまだ こうじ にしい かずひろ 山田 晃司、西井 一宏							
科目概要 Course Aims	<p>筋をはじめとして骨、靭帯、腱、関節などの運動器と中枢神経系について肉眼的、組織学的な知識や理論に基づき、臨床においてリハビリを行う治療過程で発生する諸問題、予後の判定などに関して、形態と構造観察に留まらないその機能解析について説明する。解析方法として肉眼的、組織学的観察方法、行動解析手法を身につけ、免疫組織化学、生化学的、分子生物学的解析手法、神経心理学的手法を用いて、運動器系の組織、細胞の形態と機能、運動制御について明らかにする。また、神経系の解析においても同様な手法に加え動物行動解析を実施する。各種運動器系および中枢神経系の組織、細胞に関する多くの諸問題について各自の研究課題を明確化し、その仮定を実証した充実した修士論文を作成するための説明を行う。</p> <p>(山田晃司)</p> <ol style="list-style-type: none"> 免疫組織学的方法、遺伝子工学的手法、生化学的技術を身につけ、骨、筋の生理学的メカニズムを理解し、研究の進め方、文献の活用法、結果の評価方法を講義する。 骨形態計測の実施とパラメータを算出し組織学的な骨解析の仕方を理解し明らかにする。 多種にわたる運動負荷による骨や筋の形態的変化ならびにタンパク質発現の変動を解析する知識や技術を習得し、自己の研究課題を深め展開し明らかにする。 モデルマウスを使用して中枢神経系に与える運動の効果について行動解析、脳組織像解析を行い、それを引き起こす原因について探究する。 神経心理学的手法を用いて、ヒトの運動制御に関与するヒトの身体認識を客観的に測定し、障害を呈した患者の運動制御戦略を理解する。 脳波計を用いて、ヒトの運動制御に関与する身体特異性注意の神経基盤を明らかにする。 関節運動や筋収縮を客観的に測定し、機能解剖学的視点から臨床で生じる各課題を解決する方法を探究する。 <p>(西井一宏)</p> <ol style="list-style-type: none"> 動物を用いた実験の立案方法、基本的な技術を説明する。 組織学的手法を用いて脊髄神経におけるセロトニンニューロンの分布を明らかにする。 モデル動物における脊髄損傷後の運動器の変化を理解し、神経再生のメカニズムについて解析を行い明らかにする。 							
到達目標 Objectives	<ol style="list-style-type: none"> 各自の研究テーマを明らかにし、研究計画書を作成し他者に説明できる。 データ収集および分析に必要な手法を理解し実施し論理的に述べることができる。 研究報告会、学会などでデータを報告するため論理的に述べることができる。 内容の充実した修士論文を作成するため研究テーマについて他者に説明できる。 							
回数 Chapters	授業計画（各回のテーマ） Course Schedule							
1年後期（30 時間：15 コマ）								
1-15	<ol style="list-style-type: none"> 関心をよせる問題に関する文献を選択し、収集して分析する。 各自の研究課題を明確化し、研究の遂行可能性を評価する。 							

	3. 各自に研究課題に基づき、研究計画書を作成する。 4. 研究計画に従って、予備実験を兼ねた実験を実施する。		
2年前期（120時間：60コマ）			
1-60	1. 研究課題に従って、実験を行う。 2. 実験結果の収集および結果の分析 3. 実験結果の定期的な報告		
2年後期（150時間：75コマ）			
1-75	1. 研究課題に従って、実験を行う。 2. 実験結果の収集および結果の分析 3. 学会報告 4. 修士論文の作成 5. 修士論文の報告		
評価法・基準 Grading Policies	評価：実験（10%）、研究課題への主体的態度（20%）、技術と知識の習得（20%）、 修士論文の完成（50%） 基準：評価法にあげられる項目について随時口頭質問を行い、解答後にその場で解説をし、フィードバックを行う。		
教科書 Text Book	特に指定しない	教材・参考書 Reference Book	適宜指示
オフィス アワー Office Hour	山田晃司 大学8-7F-707 木曜日 19:00-20:00 メールでの質問を受け付けます。 西井一宏 大学8-7F-723 木曜日 19:00-21:00 メールでの質問を受け付けます。	連絡先 Contact	
準備学習 Preparation of study	準備学習：基礎知識について予習1時間、演習・実験・ゼミ進行に伴う発展的復習1時間ほど行うこと。実験、研究課題への主体的態度、技術、知識の習得への積極的態度を望む。	履修上の注意点 Notice for Students	実験ノートの編集は手書きでもパソコンを用いてもよい。持ち物は指定がない場合特になし。

リハビリテーション教育科学演習 (Rehabilitation Educational Science Exercise)

専攻分野 Major Field	リハビリテーション教育科学分野	学年 Grade	1年・2年	期間 Semester	1年:後期 2年:前期			
授業形態 Style	実習・ゼミ	単位 Credits	4 単位	時間数 Hours	120 時間			
授業方法 Class Methods	対面式授業	使用言語 Language	日本語					
担当教員名 Instructor	かなだ よしきよ 金田 嘉清(科目責任者)、さくらい ひろあき 櫻井 宏明、たなべ しげお 田辺 茂雄、こやま そういちろう 小山 総市朗、ふじむら けんた 藤村健太、たけだ かずや いい たくま すずむら しようた 井伊卓真、よしだ よしだ 鈴村 彰太、たいき おおた 吉田 太樹、ひろふみ 太田 翔文、きたむら しん 北村 新							
科目概要 Course Aims	<p>リハビリテーション教育科学特論で学修した知識を更に深めるために、国内外の療法士教育についてより深く学修する。これまで学んだ知識を基盤として、社会構造や教育の役割、関連法規、理学療法士および作業療法士の職域について議論する。特に、臨床実習指導に対する指導論やその評価方法、実習施設などの要件について、自らの意見を持てるように主体的に学び、議論によって知識を深める。加えて、教育研究を遂行するための基盤として、研究計画法、取得するデータに関する基本的知識・扱い方・解釈、図表の作成などについても講義および演習をする。(オムニバス方式)</p> <p>(金田嘉清、櫻井宏明、田辺茂雄、小山総市朗、藤村健太、武田和也、井伊卓真、鈴村彰太、吉田太樹、太田皓文、北村 新)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の構造と教育の役割、治療技術の標準化について調査し、議論する。 2. 様々な職種の役割について調査し、議論する。 3. 高校までの学校教育の実際について調査し、議論する 4. 現代の若者の心理的特徴について調査し、議論する(発達障害を含む)。 5. 教育の本質について調査し、議論する(倫理を含む)。 6. 臨床実習の指導方法について調査し、議論する(多様な疾患の経験および学生が実施できる行為を含む)。 7. 研究の種類と研究デザインについて調査し、議論する。 8. デザインに合わせた統計手法について調査し、議論する。 9. 研究のそれぞれのデザインについて追加の調査をし、議論する。 10. 関連する法律や社会保障制度等について調査し、議論する(診療・介護報酬を含む)。 11. 理学療法士および作業療法士の職域について調査し、議論する(予防・在宅医療を含む)。 12. 学習者の心理(発達心理等を含む)、情報活用について調査し、議論する。 13. 臨床実習施設の要件について調査し、議論する(主たる臨床実習施設を含む)。 14. 臨床実習指導者に必要な資質について調査し、議論する。 15. 臨床実習の評価方法について調査し、議論する(臨床実習前後の評価を含む)。 							

到達目標 Objectives	<p>(金田嘉清、櫻井宏明、田辺茂雄、小山総市朗、藤村健太、武田和也、井伊卓真、鈴村彰太、吉田太樹、太田皓文、北村 新)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の構造と教育の役割、治療技術の標準化を他者に説明できる。 2. 様々な職種の役割を他者に説明できる。 3. 高校までの学校教育の実際を他者に説明できる。 4. 現代の若者の心理的特徴を他者に説明できる。 5. 教育の本質を他者に説明できる。 6. 臨床実習の指導方法を他者に説明できる。(多様な疾患の経験および学生が実施できる行為を含む)。 7. 研究の種類と研究デザインを他者に説明できる。 8. デザインに合わせた統計手法を他者に説明できる。 9. 研究のそれぞれのデザインを他者に説明できる。 10. 関連する法律や社会保障制度等を他者に説明できる。(診療・介護報酬を含む)。 11. 理学療法士および作業療法士の職域を他者に説明できる。(予防・在宅医療を含む)。 12. 学習者の心理(発達心理等を含む)、情報活用を他者に説明できる。 13. 臨床実習施設の要件を他者に説明できる。(主たる臨床実習施設を含む)。 14. 臨床実習指導者に必要な資質を他者に説明できる。 15. 臨床実習の評価方法を他者に説明できる。 	
回数 Chapters	授業計画(各回のテーマ) Course Schedule	担当教員 Instructor
1年後期(60時間:30コマ)		
1-4	社会の構造と教育の役割、治療技術の標準化について調査し、議論する。	小山総市朗 太田皓文
5-8	様々な職種の役割について調査し、議論する。	小山総市朗 太田皓文
9-12	高校までの学校教育の実際について調査し、議論する。	櫻井宏明 藤村健太 武田和也
13-16	現代の若者の心理的特徴について調査し、議論する(発達障害を含む)。	櫻井宏明 藤村健太 武田和也
17-20	学習者の心理(発達心理等を含む)、情報活用について調査し、議論する。	櫻井宏明 藤村健太 武田和也
21-24	教育の本質について調査し、議論する(倫理を含む)。	櫻井宏明 藤村健太 武田和也
25-28	臨床実習の指導方法について調査し、議論する(多様な疾患の経験および学生が実施できる行為を含む)	櫻井宏明 藤村健太 武田和也
29-30	研究の種類と研究デザインについて調査し、議論する。1	田辺茂雄 吉田太樹 北村 新
2年前期(60時間:30コマ)		
1-2	研究の種類と研究デザインについて調査し、議論する。2	田辺茂雄 吉田太樹

			北村 新
3-6	デザインに合わせた統計手法について調査し、議論する。		田辺茂雄 吉田太樹 北村 新
7-10	研究のそれぞれのデザインについて追加の調査をし、議論する。		田辺茂雄 吉田太樹 北村 新
11-14	関連する法律や社会保障制度等について調査し、議論する(診療・介護報酬を含む)。		金田嘉清 井伊卓真 鈴村彰太
15-18	理学療法士および作業療法士の職域について調査し、議論する(予防・在宅医療を含む)。		金田嘉清 井伊卓真 鈴村彰太
19-23	学習者の心理(発達心理等を含む)、情報活用について調査し、議論する。		金田嘉清 井伊卓真 鈴村彰太
24-26	臨床実習施設の要件について調査し、議論する(主たる臨床実習施設を含む)。		小山総市朗 太田皓文
27-28	臨床実習指導者に必要な資質について調査し、議論する。		小山総市朗 太田皓文
29-30	臨床実習の評価方法について調査し、議論する(臨床実習前後の評価を含む)。		小山総市朗 太田皓文
評価法・基準 Grading Policies	評価：学習への取り組み方・学習態度(80%)、口頭試問、課題レポートまたは研究計画書(20%) 基準：目標の理解度を計るために課題レポートまたは研究計画書を作成する。適宜課題について到達目標に達していない点を講義の中でフィードバックする。		
教科書 Text Book	なし	教材・参考書 Reference Book	随時紹介
オフィス アワー Office Hour	金田嘉清、櫻井宏明、小山総市朗、藤村健太、武田和也、井伊卓真、鈴村彰太、吉田太樹、太田皓文、北村 新 大学 8-1F-106 月曜日 12:00-13:00 メールでの質問を受け付けます。 田辺茂雄 大学 8-1F-112 講義日随時	連絡先 Contact	

準備学習 Preparation of study	毎回の事前事後学修として、講義で扱う内容に関して参考書を用いた学修を30分以上行うこと。また事後学修として、講義内容の要点を講義ノートにまとめ、復習を30分以上行うこと。	履修上の注意点 Notice for Students	講義ノートを作成し、学修内容の振り返りを容易にしておくとよい。自分の研究以外にも幅広い知的好奇心を持って取り組むことを望む。
------------------------------	---	--------------------------------	--

リハビリテーション教育科学特別研究

(Graduate Thesis of Rehabilitation Educational Science)

専攻分野 Major Field	リハビリテーション教育科学分野	学年 Grade	1年・2年	期間 Semester	1年:後期 2年:前期・後期		
授業形態 Style	実験・研究	単位 Credits	10 単位	時間数 Hours	300 時間		
授業方法 Class Methods	対面式授業	使用言語 Language	日本語				
担当教員名 Instructor	かなだ よしきよ さくらい ひろあき こやま そういちろう 金田 嘉清、櫻井 宏明、小山 総市朗						
科目概要 Course Aims	<p>療法士教育に必要な態度・知識・技術について EBM (Evidence Based Medicine) の視点から研究し、科学性を追求する。</p> <p>(金田嘉清)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 療法士の帰結予測に関する研究 2. 療法士の治療技術の標準化に関する研究 3. 療法士の臨床実習指導に関する研究 <p>(櫻井宏明)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法士・作業療法士のための臨床技能と OSCE (Objective Structured Clinical Examination, 客観的臨床能力試験) の開発 2. 理学療法士・作業療法士学生教育、新人療法士教育における臨床能力評価方法の開発に関する研究 3. 臨床指導者(理学療法士・作業療法士)が学生ならびに新人療法士を教育する上での臨床技術の標準化に向けた研究(臨床指導者養成コースの開発) 4. 理学療法士・作業療法士学生教育、新人療法士教育における客観的臨床能力試験(OSCE)、問題解決型学習(PBL, Problem Based Learning)、チーム基盤型学習(TBL, Team-Based-Learning)の有用性に関する研究 <p>(小山総市朗)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 物理療法(電気、超音波、衝撃波、振動等)に関する研究 2. ロボット・ICT の臨床活用に関する研究 3. 運動学習を促進させるフィードバック・意欲・注意・記憶に関する研究 4. 理学療法士・作業療法士の卒前・生涯教育に関する研究 5. 心身の健康に対する日常の身体活動や運動に関する研究 6. 医療データの臨床活用に関する研究 						
到達目標 Objectives	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマの決定と参考文献収集及び研究計画の立案を行うことができる。 2. 研究計画に沿った実験の遂行、データ蓄積、分析検討を行うことができる。 3. 中間結果報告を行うことができる(領域内)。 4. 修士論文を作成することができる。 						
回数 Chapters	授業計画(各回のテーマ) Course Schedule						
1年後期(30 時間:15 コマ)							
1-15	<p>興味のある研究テーマに絞り込む。</p> <p>研究テーマに関連する文献の収集分析検討を行う。</p> <p>研究計画を立案する。</p>						

2年前期(120 時間:60 コマ)			
1-60	実験の展望、実験結果に関する討議を定期的に行う。 必要であればその都度、研究計画の修正を行う。 追加実験、追加研究計画があればその都度行う。		
2年後期(150 時間:75 コマ)			
1-75	学会における発表活動 最終的な実験研究結果の分析及び考察 修士論文作成、校正 修士論文発表		
評価法・基準 Grading Policies	研究への取り組み姿勢、主体的な努力(50%)、学会発表および修士論文(50%)		
教科書 Text Book	特になし	教材・参考書 Reference Book	関連文献すべてが参考書に相当する。
オフィス アワー Office Hour	金田嘉清、櫻井宏明、小山総市朗 大学 8-1F-106 月曜日 12:00-13:00	連絡先 Contact	
準備学習 Preparation of study	毎回の事前事後学修として、研究ノートを用いた学修を 30 分以上行うこと。 また事後学修として、研究内容の進捗や要点を研究ノートにまとめ、復習を 30 分以上行うこと。	履修上の注意点 Notice for Students	努力無くして成果無し

リハビリテーション生体医工学演習

(Rehabilitation Biomedical Engineering Exercise)

専攻分野 Major Field	リハビリテーション生体医工学分野	学年 Grade	1年・2年	期間 Semester	1年：後期 2年：前期			
授業形態 Style	実習・ゼミ	単位 Credits	4 単位	時間数 Hours	120 時間			
授業方法 Class Methods	対面式授業	使用言語 Language	日本語					
担当教員名 Instructor	たなべ しげお たけだ こたろう うえはら しんたろう たにかわ ひろき 田辺 茂雄（科目責任者）、武田 湖太郎、上原 信太郎、谷川 広樹							
科目概要 Course Aims	<p>生体医工学や各自の研究に関連した原著論文・総説論文を輪読し、内容について大学院生間および担当教員と討議する。最新の原著論文のみならず、現在の潮流に影響を与えた過去の論文や、教科書や最新の研究論文の基となっている古典的な論文も含めたサーベイを行い、原典を調査する姿勢を身につける。また、討議をとおして論文構成、計測法、解析法、統計法についての理解を深め、結果の解釈の方法を含めた読解技能を学ぶとともに、討議資料の作成をとおして研究成果の発表技術を学修する。（SGD 形式）</p> <p>（田辺茂雄、武田湖太郎、上原信太郎、谷川広樹）</p> <ol style="list-style-type: none"> 自身の研究に関連する最新英語文献の講読と討議 自身の研究に関連する古典的な英語文献の講読と討議 自身の研究分野の潮流に影響を与えた英語文献の講読と討議 							
到達目標 Objectives	<ol style="list-style-type: none"> 自身の研究に関連した先行研究を漏れなく調査し、収集および管理することができる。 自身の研究分野の発展の経緯を説明できる。 購読した文献におけるデータ収集法、解析法、統計法について説明できる。 論文の構成、章・節における段落の構成について説明できる。 仮説設定、および計測・解析・考察という研究における一連の検証手順を理解するとともに、先行研究で不足している点を述べることができる。 データの特性に応じた解析・統計法を理解し、適切な図表と文章で内容を表現（発表）することができる。 							
回数 Chapters	授業計画（各回のテーマ） Course Schedule				担当教員 Instructor			
1年後期（60 時間：30 コマ）								
1-30	自身の研究に関連する英語文献のプレゼンテーションと討議				田辺茂雄 武田湖太郎 上原信太郎 谷川広樹 (うち 3 名が担当)			
2年前期（60 時間：30 コマ）								
1-30	自身の研究に関連する英語文献のプレゼンテーションと討議				田辺茂雄 武田湖太郎 上原信太郎 谷川広樹 (うち 3 名が担当)			
評価法・基準 Grading Policies	<p>評価：論文検索・選択の技術（30%）、プレゼン技能（30%）、資料作成の技術（30%）、課題への主体的態度（10%）を総合して評価する。</p> <p>基準：目標の理解度を計るため、資料作成の指示・指定、または質疑応答を模擬した試問を課し、解答後に解説およびフィードバックを実施する。</p>							

教科書 Text Book	必要に応じて資料を配布する。	教材・参考 書 Reference Book	
オフィス アワー Office Hour	田辺茂雄 大学 8-1F-112 講義日随時 武田湖太郎 七栗記念病院 講義日随時 谷川広樹 大学 8-7F-725 講義日随時 上原信太郎 大学 8-7F-711 講義日随時	連絡先 Contact	
準備学習 Preparation of study	文献の内容把握および説明に必要な資料の理解に関して 1 時間以上、事前に予習・準備すること。演習後には復習を 30 分程度行うこと。	履修上の注意点 Notice for Students	初学者のうちは文献の検索や読解に時間がかかるため、十分な時間的余裕をもって臨むこと。

リハビリテーション生体医工学特別研究

(Graduate Thesis of Rehabilitation Biomedical Engineering)

専攻分野 Major Field	リハビリテーション生体医工学分野	学年 Grade	1年・2年	期間 Semester	1年：後期 2年：前期・後期			
授業形態 Style	研究・ゼミ	単位 Credits	10 単位	時間数 Hours	300 時間			
授業方法 Class Methods	対面式授業	使用言語 Language	日本語					
担当教員名 Instructor	たなべ しげお たけだ こたろう うえはら しんたろう 田辺 茂雄、武田 湖太郎、上原 信太郎							
科目概要 Course Aims	基礎研究、臨床研究を問わず、リハビリテーションに関連した神経生理学、運動学、計測工学、治療・支援機器開発についての研究を行う。具体的には、四肢や姿勢の制御、治療的学習、臨床評価手法・リハビリテーションロボットなどについて健常者を対象とした基礎的研究および患者を対象とした臨床研究を行う。学生は隨時指導教員と討議しながら研究を進め、関連学会にて成果を発表するとともに修士論文を作成する。学術論文として公表する価値があると評価された修士論文は学術誌へ投稿する。							
	(田辺茂雄) 1. 活動支援機器の開発に関する研究 2. 理学療法、作業療法の練習および評価の手法に関する研究 3. 運動機能、認知機能の計測および解析の手法に関する研究							
	(武田湖太郎) 1. 筋電図・トルク計測による客観的痙攣評価の研究 2. 脳機能に関する研究 3. 身体の計測・分析・評価に関する研究 4. 測定や介入のための機器開発に関する研究 5. 手の心的回転とその臨床応用に関する研究							
	(上原信太郎) 1. 運動制御・学習に関わる神経生理学的基盤に関する研究 2. 運動制御・学習を効率化する運動トレーニングに関する研究 3. 運動機能障害の特徴理解とその回復過程に関する研究 4. 運動機能障害の評価、および効果的な介入手法に関する研究							
到達目標 Objectives	1. 研究の意味を理解し、研究活動を習慣化し、研究者としての自覚を持つ。 2. 倫理的配慮ができるようになる。 3. 研究遂行手法を習得する。 4. コミュニケーション（説明手法、研究発表、論文執筆）スキルを身につける。							
回数 Chapters	授業計画（各回のテーマ） Course Schedule							
1年後期（30 時間：15 コマ）								
1-15	1. 関心をよせる問題に関する文献を選択し、批判的に分析する。 2. 各自の研究課題を明確化し、研究の実現性を評価する。							
2年前期（120 時間：60 コマ）								
1-60	1. 研究テーマに基づき、研究計画書（要倫理的配慮）を作成する。 2. データ収集およびデータ分析を行う。							
2年後期（150 時間：75 コマ）								
1-75	1. 分析結果に対する考察および検討を行う。 2. 必要に応じて追実験を行う。							

	3. 修士論文の作成 4. 修士論文の報告		
評価法・基準 Grading Policies	評価：研究課題への主体的態度（20%）、技術と知識の習得（30%）と修士論文の完成（50%） 基準：目標の理解度を計るため、レポートや資料作成等の課題、または試問を課し、解答後に解説およびフィードバックを実施する。		
教科書 Text Book	必要に応じて資料を配布する。	教材・参考書 Reference Book	必要に応じて資料となる論文等を配布する。
オフィスアワー Office Hour	田辺茂雄 大学 8-1F-112 講義日随時 武田湖太郎 七栗記念病院 講義日随時 上原信太郎 大学 8-7F-711 講義日随時	連絡先 Contact	
準備学習 Preparation of study	その都度、次回までの課題を指定する。	履修上の注意点 Notice for Students	各自の研究テーマは担当教員の研究テーマに関連した内容が望ましい。